

道東太平洋沖の流速場（2018年08月 海況速報No.183 付記）

2018/08/03

中央水産試験場 海洋環境G、釧路水産試験場、函館水産試験場

釧路水産試験場所属試験調査船「北辰丸」による、流れの調査結果をお知らせします。（水温観測結果は「北辰丸」および、函館水産試験場所属「金星丸」の結果を使用しています。）

親潮： 親潮（O1：流速20～40cm/s程度（100m深））は根室沖を西南西に流れています。その流幅は非常に狭く、流速も去年に比べ遅めです。親潮はそのまま岸に沿って襟裳岬の東側を42°N付近まで南下しています。これより南では流路がはっきりせず、明瞭な流れは道東沿岸周辺に限られています。今年の親潮勢力は、2015～2016年のように強い暖水塊が道東沖に分布した年と比べれば強めですが、去年の同時期に比べるとかなり弱めです。

暖水： 根室の南では、親潮の沖側に例年よりも2℃以上高い暖水が分布しています。この暖水周辺には強い北上流（W1：流速40～50cm/s程度（100m深））が分布しており、これは146°E以東に中心を持つ暖水塊の一部と考えられます。

今後の見通し： 親潮の面積は例年冬に向けて減少していきますが（2018年6月道東太平洋沖の流速場No.182参照）、今年は8月時点で去年の10月時点に匹敵するほど小さくなっています。その為、今後も中深層水温は例年よりも高めで推移すると考えられ、暖水の沿岸への流入に伴う沿岸水温の急変、気温の上昇に伴う表層水温の急上昇など、道東沿岸では海況が急変するリスクが高まっています。今後の情報にご注意下さい。

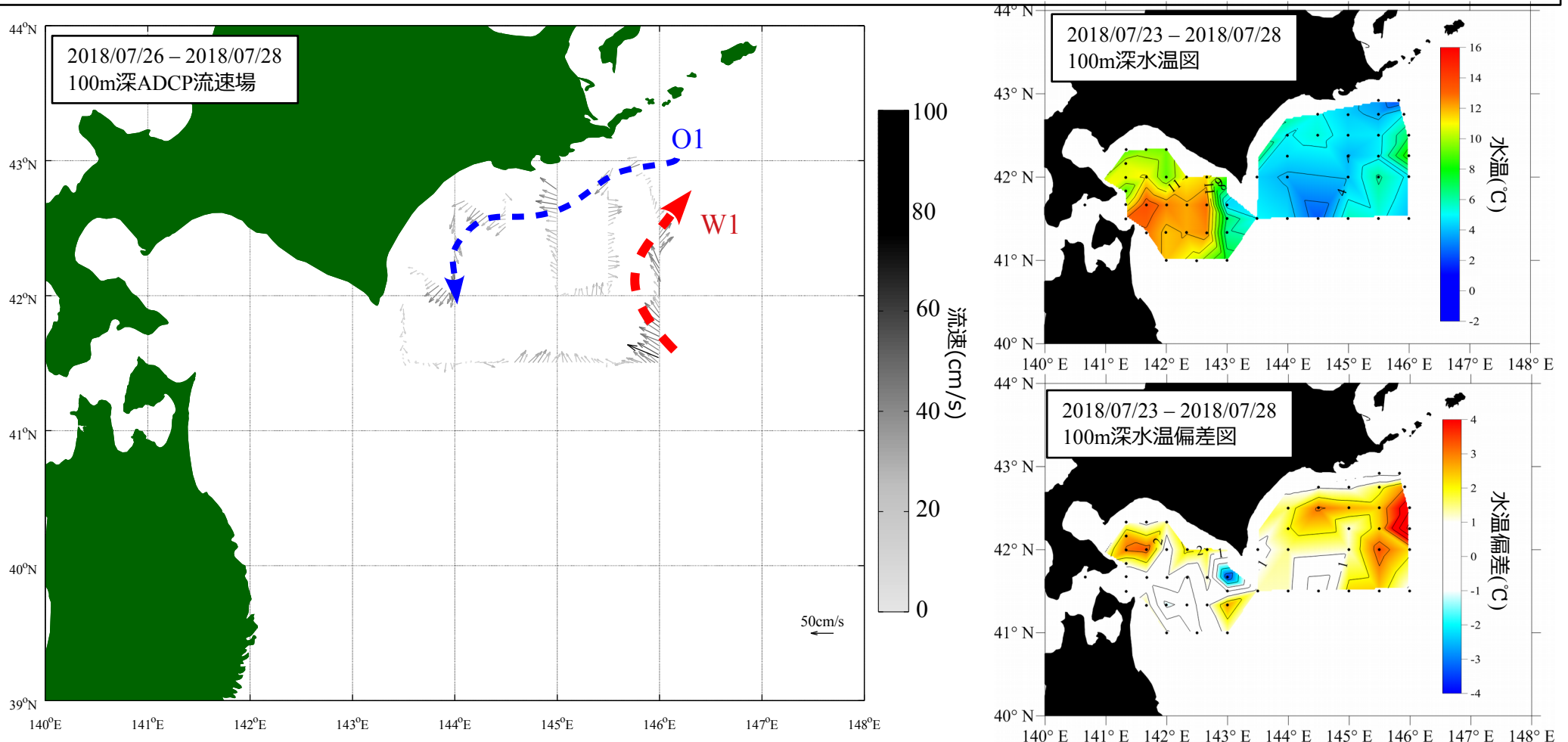


図1 ADCPによる100m深の流速場と模式図。実線矢印は向きでその場所の流向を、長さで色の濃淡が流速を表す。点線矢印は推定された親潮（青）と暖水（赤）の流れの模式図

図2（上）100m深水温図
（下）100m深水温偏差図（1989～2008年平均からの差）